令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保東小学校】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>国語科では「「文の中の主語と述語の関係を理解すること」に課題がみられた。 <指導上の課題>主語と述語を意識して文を読んだり書いたりすることが不十分である。	⇒	教科横断的な視点で、主語と述語を意識して文を読んだり書いたりさせることを繰り返し取り組む【毎時間設定】。授業中に自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする【毎時間設定】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>「話すこと・聞くこと」の領域に課題がみられた。 <指導上の課題>話す際に、事実と感想、意見とを区別すること、聞く際には、目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えを比較しながら、自分の考えをまとめる指導が不十分だった。	⇒	話す際には、授業のみでなく普段の生活の中で話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別することを意識させる【毎時間設定】。話を聞く際には、話の内容を捉え、自分の考えをまとめる活動を取り入れる【R6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動は、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	国語、算数ともに、昨年度の結果より平均正答率が2ポイント以上上昇した。また、無回答率を比較した場合、算数の無回答率が昨年度より大きく下回った。問題の後半になるほど、国語、算数ともに無回答率も高くなっている。これが、正答率を低くしている原因の一つと考えられる。一方で、国語では知識・技能を問う内容でも特に漢字の記述や主語述語の関係を問う「言葉の特徴や使い方に関する事項」で課題が見られた。また、算数では、除数が少数であるときの大きさの関係や計算、道のりや時速などを問う「変化と関係」に関する事項で課題が見られた。
思考・判断・表現	国語、算数ともに、昨年度の結果より平均正答率が3ポイント以上上昇した。また、無回答率を比較した場合、国語、算数ともに昨年度より大きく下回ったが、知識・技能と同様、問題の後半に行くほど無回答率が高くなっている。子どもたちが一問一問、粘り強く問題に取り組んでいる半面、それにより後半の回答時間が取れていないとも考えられる。、国語では、物語の文章から人物像を具体的に想像したり、登場人物の心情を読み取ったりするところに課題がみられた。また情報から関連付けて考察するところにも課題が見られた。算数では、問題から問われている情報をグラフから正確に読み取ったり、立式や求めた答えの根拠を説明したり自分の考えを表現するところに課題が見られた。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	主語、述語の関係について意識的に取り組んだが不十分であった。継続して取り組むようにする。	引き続き、主語、述語の関係について学習の中で取り組むとともに、日々の振り返りで文章を書く活動の充実を図り、語句の関係を意識しながら表現する時間を確保する。【学びの指標アンケート、学校課題研修の実践、市学習状況調査】
思考・判断・表現	B	事実と意見、考えを区別したり、考えを交流する活動を行ったりすることができた。	引き続き、事実と感想・意見を区別して表現できるよう書く活動を継続して実施する。また、わかったことから自分の考えを表現し、他者の考えと交流する機会を継続して設けていく。【学びの指標アンケート、学校課題研修の実践、市学習状況調査】

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)

知識・技能	R5年度調査に比べると、正答率が高まった教科領域が増えた。国語では、漢字の力はついてきている。主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係等に引き続き課題が見られる。算数では、小数のひき算やわり算や四則演算が混じる問題、図形に課題がある。
思考・判断・表現	R5年度調査に比べると、正答率が高まった教科領域が増えた。国語では、長文の問題や、「読むこと」について登場人物の気持ちの変化や性格・情景について、場面の移り変わりと結び付けてとらえることに課題が見られる学年が多い。算数では、多くの情報を整理したり、題意に合わせて情報を取捨選択したりする問題に課題があり、題意を読み取れていない児童も多くいると推測される。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価(※)	
知識・技能	B	国語科では、主語、述語の関係について語句の関係を意識しながら表現する活動に取り組み、改善が見られた学年もあったが、課題としている学年が多い。既習事項を振り返ることで定着を図っていく。国語、算数とも、授業を振り返る時間を確保するように努めてきたが、今後も継続して取り組み、児童自ら課題に気づき、改善につなげるようにしていく。
思考・判断・表現	B	「じ・し・ゃ・ク」の視点から授業を見直し、グループでの話合いの時間を確保するなど協働的な学びにつなげることができた。国語では事実と感想・意見を区別することや、算数では図に表すなど条件や意識づけを継続して行った。無回答率がR5年度調査よりも低い教科が増えた。

※評価　A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	全体的に、基礎的・基本的な知識・技能の向上が見られる。だが、言葉の特徴や使い方に関する事項や図形の基本的な知識事項、四則演算のきまり等を正確に理解できていない児童も一定数いる。「ドリルパーク」等を活用し、児童一人ひとりの課題に応じた既習内容を振り返る機会を設ける。学びの指標アンケートによる授業改善や学習状況調査を踏まえた児童理解を校内研修に取り入れていく。併せて、国語の主語と述語の関係については、指導法について研究を進めていく。
思考・判断・表現	多様な表現方法で表す機会を計画的・継続的に行い、問題や資料の意図を確認しながら、協働的な学びの実践を継続して行っていく。長文の問題や多くの情報を整理したり、目的や意図に応じて情報を取捨選択できるよう、学習展開や学習過程を見直し、各教科の中で出題方法を工夫したり、単元全体など大きなまとまりごとに整理する活動に取り組ませたりする学習を取り入れていく。